

トピックス

# 低価格でもナース24時間 看取り特化の2棟目も計画



PlanB  
浜中俊哉社長

PlanB(三重県四日市市)は、昨年11月、医療対応・看取りに特化したサービス付き高齢者向け住宅「ナーシングホームしらゆりケア」を同市に開設した。入居は好調で、年内には隣地に看取りに特化したサ高住を着工する。

同社は2014年、介護が全く未経験の浜中俊哉社長が設立した。15年に初の事業所となる訪問看護を開設。16年には訪問介護、17年には居宅介護支援、そして18年にサ高住と、毎年1つずつ新しいタイプの介護事業所を立上げている。全ての事業所は徒歩5分の範囲内にあり、地域密着を徹底している。

## 訪看は常勤換算で12.5人



▲医療対応・看取りに特化している

「介護で起業する前、義母が在宅で介護保険サービスを利用していたのですが、ケアマネジャー、訪問看護師、訪問ヘルパーがそれぞれ別の会社で、家族の立場としては煩わしさを感じていました。また、それらの事業所の連携が全く取れていませんでした。具体的には義母は難聴だったのですが、その情報すら共有されていませんでした。こうした経験から

「ワンストップで対応できる体制」を重視しています」  
訪問看護は常勤換算で看護師が12・5人いる。これは四日市市内34の訪問事業所の中で最多だ。このため近隣の大病院からの退院後の在宅受入れ依頼も多く、これまでに在宅看取りも70件ほど行ってきた。こうした経験が、ナーシングホームの開設につながった。

居室数は30。看護師が24時間常駐している。入居費用は食費込みで月12万2000円に抑えた。居室は「5室は看取り期」「10室は常時見守りが必要な人」「15室は医療的ケアの観点から他の高齢者住宅では受入れ困難な人」と区分しており、この比率は崩さない考え。開設してまだ3ヵ月足らずだが既に5件の看取りを行っている。

運営面ではICTの活用積極的に。全居室にエコナビスタの健康見守りサービス「ライブリズムナビ+Dr」を導入。また、社内の連絡はグループウェアを活用しペーパーレス化を進めている。こうした業務効率化は「現場の人員を減らす」ことを目的に行う事業者も多いが、同社は、人員を減らすことはいらない。「建物の内スタッフは1人でも多いほうがいい。見学者などに与える印象が全然違う」という考えからだ。

「介護ビジネスの未来を創る」  
**週刊 高齢者住宅新聞**  
Elderly Press Newspaper

2019年(平成31年)  
**1月30日**  
第527号 (毎週水曜日発行)  
 (株) 高齢者住宅新聞社  
 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15  
 ☎03-3543-6852(編集部)  
 発行人 西岡一紀  
 年間購読料 22,680円(送料込・税込)  
 ホームページ  
<http://koureisha-jutaku.com>